

東北管内の花きの情勢

(平成20年3月)

東北農政局生産経営流通部園芸特産課

1. 19年度における花き関係イベントの概要

東北管内の花き産業発展のため、東北地域花き産業振興協議会※は、年間を通して様々な行事を行っております。

(1) 第20回東北花の展覧会

ア 平成19年9月1(土)から2日(日)にかけて、福島県郡山市の福島県農業総合センターにおいて、東北花の展覧会が開催されました(審査会は8月31日(金))。

イ 出品点数は、きく類、トルコギキョウ、りんどうをはじめ277点でした。

ウ 8月31日(金)の審査会において、国、県、団体及び協議会会長賞を選考し、多数の賞が選ばれました。

農林水産大臣賞:トルコギキョウ(青森県 山谷秀一氏)
農林水産省生産局長賞:バラ(山形県 小島憲氏)
東北農政局長賞:シンテツポウユリ(福島県 安田二郎氏)

※ 東北地域花き産業振興協議会とは、東北6県の生産、流通、販売、行政の花き関係団体等(37組織)で構成され、昭和61年に発足し、花きの生産・流通・消費に関する振興策や情報交換を行い、東北地域の花き産業を推進する組織である。



農林水産大臣賞
(トルコギキョウ)



生産局長賞
(バラ)



東北農政局長賞
(シンテツポウユリ)

(2)「第5回花き生販連携促進交流大会2007in東北 ～あなたの花 きっと出会える 東北で(生産-流通-販売の輪)～」

東北農政局は、東北地域花き産業振興協議会及び(財)日本花普及センターとの共催により、花きの生産・流通・販売の連携を図るために「第5回花き生販連携促進交流大会2007in東北」を開催しました。その概要を報告します。

ア 趣旨

我が国の花き産業は、「花き産業振興方針」(平成17年3月農林水産省花き対策室(現花き産業振興室)策定)において、「ホームユース需要に対応した生産・販売の推進」及び「ブランド化等に向けた生産・販売の促進」等を実現するために、生産・流通・販売の連携をこれまで以上に強め、消費者ニーズに的確に対応した花きの生産・販売に取り組み、需要拡大を推進し、花き産業をより一層発展させていくことが必要になっています。

このため、花きの生産者、流通業者及び販売業者等が一堂に会して、相互連携を図るための生販連携促進交流大会を開催しました。

イ 開催日・場所

開催日:平成19年9月2日(日)

開催場所:福島県郡山市「福島県農業総合センター」(交流棟 多目的ホール 1階)

ウ 主催

東北地域花き産業振興協議会、東北農政局、(財)日本花普及センター

エ 概要

①花きに関するセミナー

有限責任中間法人日本フローラルマーケティング協会の小川孔輔会長からは、「花業界のプロモーションと花の販売技術」と題して、花業界から一般消費者への積極的な広報の重要性について、また、有限会社矢祭園芸の金澤美浩代表取締役からは、「オリジナル品種を経営に生かす」と題して、育種生産者として消費者ニーズにあった花きの育種について、御講演いただきました。



小川孔輔会長講演



金澤美浩代表取締役講演

②生産-流通-販売の連携促進のための交流

大会には、142人／88団体が参加し、うち出展希望の20団体が出展を行い、POP、商品等展示を実施し、参加者の間で意見交換・質疑応答による積極的な交流・連携が行われました。



また、プレゼンテーション希望の11団体により、団体の活動内容、資材等商品の紹介が行われました。



(3) 第20回東北花の展覧会表彰式及び東北地域花きセミナー

ア 平成19年11月8(木)から9日(金)にかけて、秋田県秋田市及び潟上市において、東北花の展覧会表彰式及び花きセミナーを開催しました。

イ 初日に、花の展覧会における受賞者に各賞の表彰を行い、セミナーでは、MPSフローラルマーケティング(株)の松島義幸代表取締役社長から、「花き産業総合認証プログラム:MPSの導入について」と題して、(独)種苗管理センターの丹羽優治品種保護対策役から、「品種登録制度と育成権者保護対策の実際」と題して、御講演いただきました。

ウ 翌日に、潟上市のシクラメン農家及び秋田県花き種苗センターの現地研修を行いました。



松島義幸代表取締役社長講演



丹羽優治品種保護対策役講演



シクラメン農家ほ場



秋田県花き種苗センター

2. 東北管内の花き生産状況

(1) 花き栽培農家数

ア 全国の花きの栽培農家数は減少傾向であり、平成17年は114,635戸で前年に比べて、5,204戸(4.3%)減少した。

イ 東北管内においては、前年に比べて微減であった。

表1. 花き栽培農家数

単位: 戸

区分	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年
全国	130,932	125,621	125,697	119,839	114,635
東北 (東北/全国)	11,837 9.0%	11,568 9.2%	11,159 8.9%	10,761 9.0%	(9,873) ...
青森	1,296	1,346	1,296	1,205	(1,175)
岩手	3,212	3,084	2,970	2,818	2,668
宮城	1,594	1,431	1,315	1,303	1,096
秋田	1,134	1,174	1,024	979	760
山形	2,226	2,159	2,072	2,130	1,984
福島	2,395	2,370	2,483	2,322	2,190

資料: 農林水産省統計部「花き生産出荷統計」及び同省生産局園芸課花き産業振興室「花木等生産状況調査」

注1) 「花き生産出荷統計」の切花類、鉢物類、花壇用苗物類、球根類の各栽培農家数に「花木等生産状況調査」の花木類、芝、地被植物類の各栽培農家数を合計した値である

注2) ()は参考値、青森県の数値は県調べ

(2) 花き作付(収穫)面積

ア 全国の花きの作付(収穫)面積は減少傾向であり、平成17年は37,934haで前年に比べて、2,264ha(5.6%)減少した。

イ 東北管内においては、前年に比べて微減であった。

表2. 花き作付(収穫)面積

単位: ha

区分	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年
全国	43,667	42,691	41,980	40,198	37,934
東北 (東北/全国)	2,707 6.2%	2,585 6.1%	2,549 6.1%	2,563 6.4%	(2,434) ...
青森	239	236	234	217	(208)
岩手	648	594	584	592	576
宮城	326	302	309	324	289
秋田	199	198	191	185	158
山形	438	442	446	454	415
福島	858	813	786	789	788

資料: 農林水産省統計部「花き生産出荷統計」及び同省生産局園芸課花き産業振興室「花木等生産状況調査」

注1) 「花き生産出荷統計」の切花類、鉢物類、花壇用苗物類、球根類の各面積に「花木等生産状況調査」の花木類、芝、地被植物類の各面積を合計した値である

注2) ()は参考値、青森県の数値は県調べ

(3)花き生産額

ア 全国の花き生産額類は減少傾向であり、平成17年は4,997億円で前年に比べて、212億円(4.1%)減少した。

イ 東北管内は、青森県、岩手県が微増、山形県が横ばいで、宮城県、秋田県、福島県が微減であった。

表3. 花き生産額 単位:億円

区分	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年
全国	5,695	5,697	5,470	5,209	4,997
東北 (東北/全国)	323 5.7%	331 5.8%	318 5.8%	314 6.0%	309 6.2%
青森	35	36	34	31	32
岩手	61	68	62	57	58
宮城	53	50	48	49	47
秋田	30	31	33	31	29
山形	63	67	66	67	67
福島	82	79	76	80	76

資料:農林水産省統計部「生産農業所得統計」及び同省生産局園芸課花き産業振興室「花木等生産状況調査」

注)切花類、鉢物類、花壇用苗物類、球根類、芝は「生産農業所得統計」により、花木類、地被植物類は「花木等生産状況調査」による

3. 東北管内の花き主品目

(1) 生産額

ア 平成17年の東北管内各県における品目別生産額が10億円を超える品目は、きくが福島県(14億円)、宮城県(12億円)、バラが山形県(16億円)、りんどうが岩手県(23億円)である。

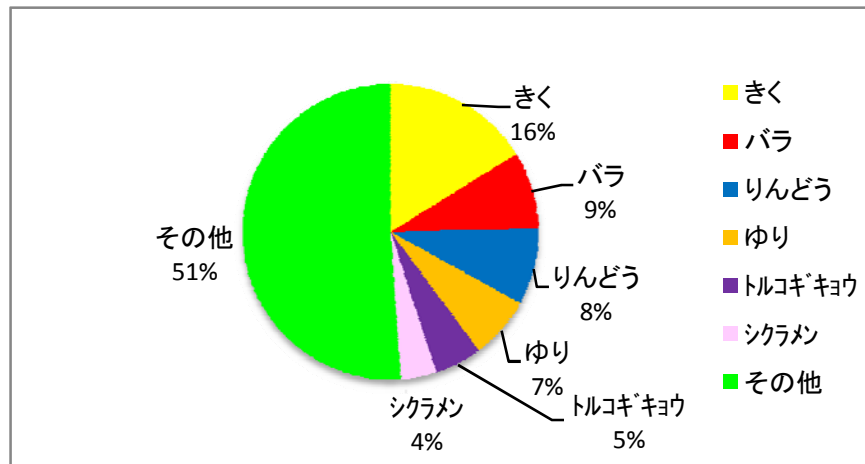
イ 平成17年の東北管内の花きの主な品目別生産額のシェアについて、きく50億円(シェア16%)、バラ26億円(シェア9%)、りんどう26億円(シェア8%)の順番となっている。

表4. 花き主品目生産額(平成17年)

単位: 億円

区分	切り花類					鉢物類		その他
	きく	バラ	りんどう	ゆり	トルコギキョウ	シクラメン		
東北	50	26	26	21	16	12	158	
青森	5	3	0	1	1	1	21	
岩手	8	0	23	7	1	1	18	
宮城	12	5	0	0	1	2	27	
秋田	8	1	0	2	2	1	15	
山形	3	16	1	5	5	2	35	
福島	14	1	2	6	6	5	42	

図1. 東北管内花き生産額品目シェア(平成17年)



資料: 農林水産省統計部「生産農業所得統計」

注1)「きく」は、「輪ぎく」、「スプレーぎく」、「小ぎく」の合計

注2)「ゆり」は、球根切り花

(2)生産地域(市町村)

ア 平成17年の花き品目別生産額が、10億円を超える管内県の主な市町村の作付(収穫)面積は、表5のとおりである。

表5. 管内花き主品目の市町村・面積(平成17年)

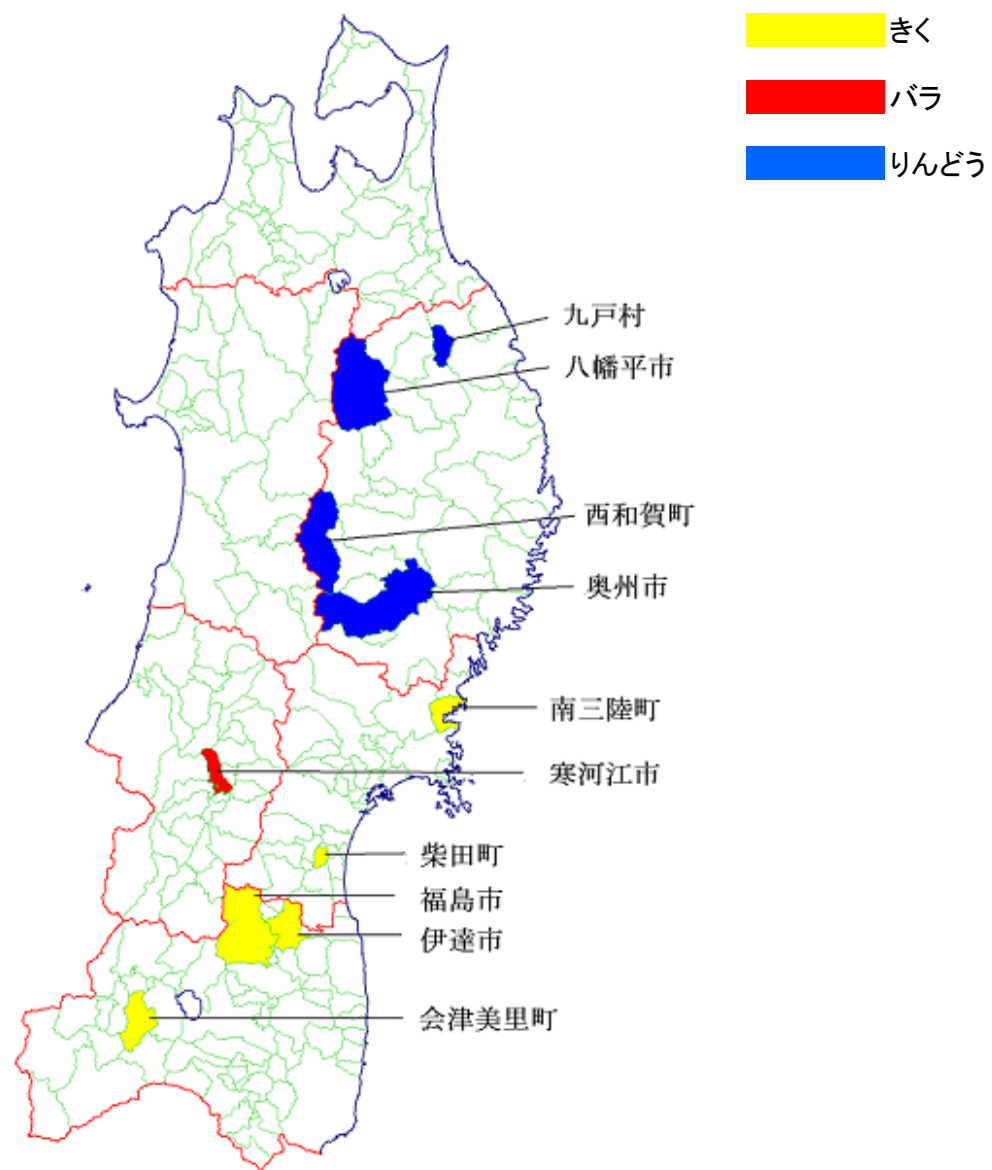
品目	県名	市町村名(作付(収穫)面積)
きく	宮城県	柴田町(17ha)、南三陸町(17ha)
	福島県	福島市(60ha)、伊達市(22ha)、会津美里町(16ha)
バラ	山形県	寒河江市(9ha)
りんどう	岩手県	安代町(現八幡平市)(97ha)、沢内村(現西和賀町)(40ha)、衣川村(現奥州市)(25ha)、九戸村(20ha)

資料:管内各農政事務所の作物統計資料より

注1)面積は、アール以上を四捨五入した値

注2)「きく」は、「輪ぎく」、「スプレイぎく」、「小ぎく」の合計

図2. 管内花き主品目の市町村マップ



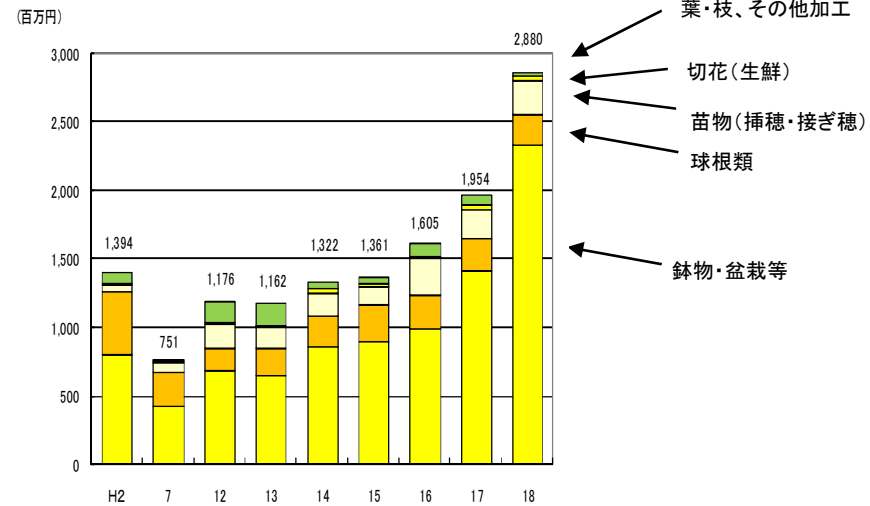
4. 花きの輸出

(1) 国内の輸出の状況

ア 花きの輸出は、鉢物・盆栽等を中心に年々、増加傾向にある。

18年の輸出金額は、2,880百万円で対前年比47%増加した。

図3. 花きの輸出金額の推移



資料: 財務省「貿易統計」

(2) 東北管内の花きの輸出状況

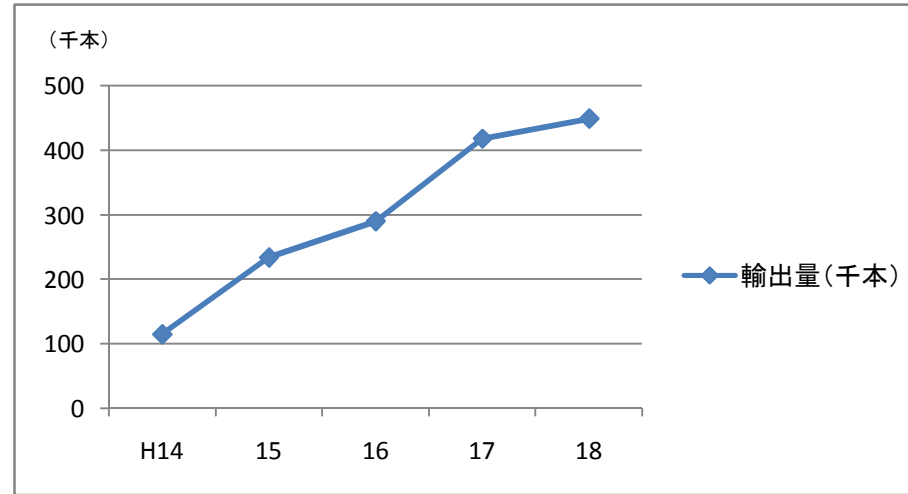
ア 管内の花きの輸出について、岩手県安代町(現八幡平市)で平成14年から「安代(あしろ)りんどう」のオランダへの輸出を開始し、年々、出荷増となっている。

イ 日本では、仏事用が主であるのに対し、欧米では、結婚式の日に青いものを身につけていくと幸せになれる(サムシング・ブルー)という言い伝えから、結婚式のブーケや慶事のフラワーアレンジメント等に使用されている。

表6. 岩手県「安代りんどう」の輸出状況 (単位:千本)

全出荷量	H14	15	16	17	18
		26,880	25,200	24,850	24,950
うち輸出量 (シニア)	115(0.4%)	234(0.9%)	290(1.1%)	418(1.7%)	449(2.5%)

図4. 「安代りんどう」輸出量の状況



資料:八幡平市花き研究開発センター調べ

5. 東北管内の切り花の購入状況

ア 平成16から18年平均の東北地域の県庁所在地の1世帯当たりの切花年間購入額は、平均13,272円と全国平均10,674円を上回っている。

イ 東北管内では、仙台市の1位をはじめ、ベスト10位までに4市が入っている。

表7. 切花の都道府県庁所在地別1世帯当たりの支出金額

支出金額(円)		全国順位
全国平均	10,674	—
東北平均	13,272	—
青森 (青森市)	13,993	7
岩手 (盛岡市)	12,891	10
宮城 (仙台市)	15,927	1
秋田 (秋田市)	11,271	20
山形 (山形市)	11,313	19
福島 (福島市)	14,238	6

資料:総務省統計局「家計調査」

注)抽出データは、「2人以上の世帯(農林漁家世帯を除く)」より

6. 東北管内の花育活動の取り組み

(1)花育の取り組みの背景

我が国の花き需要は、冠婚葬祭や企業間贈答等の業務需要を主体に拡大してきましたが、平成12年前後をピークに横ばいないし微減傾向に転じています。現在花きの需要動向を家計費調査において、切り花を年間一度でも購入した世帯の割合が約4割であることから、日常的に花を楽しむ生活が定着しているとはいえません。今後の花き産業の振興を図るためにも、子供の頃から親や地域住民とともに、身近に花や緑に触れ、豊かなこころを養う「花育(はないく)」の取り組みが重要であることから、平成18年12月に農林水産省は花育の全国事例調査を実施しました。その事例調査の中から、宮城県の実例を紹介します。

(2)管内の花育の取り組み事例

【宮城県】

ア 「みやぎの花のある生活創造事業」において、平成15年度から18年度までの4年間、小学校高学年を対象に県産花きのフラワーアレンジメント教室を開催しました。

イ 作成したアレンジ作品を学習発表会に展示したり、体験発表を行いました。体験した児童から、「実習を楽しむことができ、またやってみたい」という希望が多く寄せられました。

表8. 宮城県のフラワーアレンジメント教室の取り組み状況

	15年度	16年度	17年度	18年度	合計
実施校数(校)	9	8	8	7	32
体験児童数(人)	291	246	262	252	1,051

○デザイン事例



①ラウンド型



②トピアリー型



③クリスマスケーキ

7. 花き関連サイト

○農林水産省生産局園芸課花き産業振興室ホームページ

(花き振興コーナー)

<http://www.maff.go.jp/soshiki/seisan/flower/index.html>

(花育(はないく)について)

<http://www.maff.go.jp/soshiki/seisan/flower/hanaiku/index.html>

8. 利用に際しての留意事項

ア 調査の対象は、平成17年より当該品目ごとに全国出荷量の概ね80%を占めるまでの上位都道府県を調査対象県(主産県)として、当該都道府県における花きの集出荷団体、集出荷業者及び個人出荷農家等(以下、「集出荷団体等」という。)を調査対象としている。

イ 我が国の花きの生産状況に関する統計は、農林水産省統計部による「花き生産出荷統計」(A)、「生産農業所得統計」(B)及び農林水産省生産局園芸課花き産業振興室による「花木等生産状況調査」(C)の相互補完により構成されるが、本資料の作成にあたっては、下記の資料によるほか、県調べの数値を使用した。

種 類	栽培農家数	作付(収穫)面積	出荷数量	生産額
切り花類	(A)	(A)	(A)	(B)
鉢物類	(A)	(A)	(A)	(B)
球根類	(A)	(A)	(A)	(B)
花壇用苗物類	(A)	(A)	(A)	(B)
花木類	(C)	(C)	(C)	(C)
芝	(C)	(C)	(C)	(C)
地被植物類	(C)	(C)	(C)	(C)

ウ 統計上、「…」は、事実不詳又は調査を欠くものである。

エ 数値については、ラウンドの関係で、内容と計が一致しない場合がある。